

「信濃教育」に掲載されたフロラ関係文献目録（Ⅰ）

長野県は、現状はともかく、伝統的に教育県として知られている。その伝統をつくり上げたのは、1886（明19）年に創立され、現在なお活発に活動が続けている「信濃教育会」であるといってもよい。信濃教育会は、創立と同時に機関誌「信濃教育」（73号まで、誌名は「信濃教育会雑誌」）を発刊、1979年5月現在実に通算1110号を数えるに至った。

この雑誌には植物関係の報文もなかなか多いが、限られた配布先の故にすぐれた論文も残念ながら学界に知られずに終わっているように思われる。そこで、ここでは1886（明19）年の創刊号から1945（昭20）年12月発行の708号に至るまでに掲載されたフロラ関係の報文をリストアップし、併せて植物誌作成のための資料としたい。記録される項目は、発行年・著者名・テーマ・号数・頁の順である。

1890（明治22）年

羽田貞義：戸隠山植物採集 Na48, 15～17

———：——— Na49, 12～14

1892（明治25）年

羽田貞義：信濃産有毒植物 Na72, 23～24

———：——— Na73, 22～24

1899（明治32）年

河野齡蔵：白馬山に登る記 Na153, 20～23

1902（明治35）年

富岡朝太・田中貢一：戸隠地方植物採集旅行記
Na190, 37～45

1904（明治37）年

河野齡蔵：信濃ニ関スル歴史上ノ動植物 Na219,
11～15

1908（明治41）年

田中貢一：薦竹及竹米ニ就テ（承前）Na255, 34～37

1911（明治44）年

八木貞助：信濃産普通有毒草菌類 Na301, 22～24
———：———（つづき）Na3029～10

1912（明治45）年

八木貞助：信濃産普通有毒草菌類其三 Na303, 17～19
矢沢米三郎：博物学上に於ける信州（信濃博物学雑誌より転載） Na304, 14～17

1913（大正2）年

長谷川蘭馨：所謂蠟媒花と風媒花の訂正を望む。
Na326, 14～16

1914（大正3）年

八木貞助：光薺と信州 Na333, 1～10

長野高等女学校：戸隠登山旅行に就て Na335,
18～23

渡辺敏：国産という事より思いを起して椿の天然
林に就き Na338, 22～23

宮川生：光薺につきて Na338, 31～33

1915（大正4）年

矢沢米三郎：本県下に在るナンジャモンジャの木
Na349, 126～128

1918（大正7）年

矢沢米三郎：学術上注意すべき信濃の植物
Na384, 67～69

河野齡蔵：高山植物の葉の捲曲 Na384, 69～72

1921（大正10）年

小泉秀雄：寒地植物（新称）に就て Na420, 9～18

———：信州植物の研究（一） Na421, 11～24

長谷川五作：紅葉に就いて Na421, 25～28

小泉秀雄：信州植物の研究（二） Na422, 3～25

1922（大正11）年

小泉秀雄：信州植物の研究（三） Na423, 9～26

矢沢米三郎・小泉秀雄：信州植物の研究（四）
Na424, 27～43

———・———：———（五）

Na425, 16～33

1923（大正12）年

下川頼人：北安に於ける帰化植物に就て Na439,
21～22

小泉秀雄：日本南アルプス Na446, 28～40

1924（大正13）年

小泉秀雄：日本南アルプス Na448, 37～50

———：———（続）Na449, 13～35

———：———（続）Na450, 49～76

下川頼人：祖父岳山麓の植物 Na454, 52

———：山村の子供と草木 Na455, 20

———：菰野の植物 Na458, 17

1925（大正14）年

長谷川五作：秋の紅葉 Na469, 35～40

1927（昭和2）年

小泉秀雄：飛騨山系南部植物分布論 Na428,
8～62

———：——— Na488,

11~26
 _____: _____ (三)
 Na489, 29~88
 _____: _____ (四)
 Na490, 70~93
 _____: _____ (五)
 Na492, 1~41
 1929 (昭和4) 年
 小泉秀雄: 日本の桜の新研究 Na518, 16~38
 1930 (昭和5) 年
 長谷川五作: 馬, ウマ, 或はコマと呼ぶ植物
 Na519, 93~100
 小泉秀雄: 日本の桜の新研究 Na520, 32~41
 _____: _____ Na521, 40~55
 _____: _____ Na522, 56~70
 北沢達: 黒姫山の植物 Na526, 65~72
 矢沢米三郎: 信州の山川と其生物の研究 Na528,
 68~75
 下川頼人: 北安曇郡産の帰化植物 Na528, 84~
 91
 1931 (昭和6) 年
 横内斎: 木曾谷及松本平産帰化植物 Na533, 59
 ~63
 伊藤直孝: 岩菅登山道附近の植物 Na533, 63~65
 宮入茂: 更級郡西部植物目録 Na536, 42~49
 1932 (昭和7) 年
 波多腰節: 信州に於ける薬用植物 Na550, 63~80
 矢沢米三郎: 日本に於ける氷河問題 Na554, 7~
 12
 1933 (昭和8) 年
 河野齡蔵: 北海採集紀行 Na555, 102~109
 _____: _____ Na556, 95~102
 矢沢米三郎: 信濃博物研究家 Na564, 27~34
 _____: 樺太の山旅 Na564, 34~40
 _____: 北海道の登山 Na565, 43~47
 _____: 樺太の植物 Na566, 81~83
 1934 (昭和9) 年
 矢沢米三郎: 続日本氷河問題 Na567, 32~34

三村邦雄: 氷河問題雑観 Na567, 34~39
 矢沢米三郎: 信濃博物研究家 (二) Na570, 32~40
 飛田廣: 官幣大社諏訪神社上社社叢 Na571, 36
 ~62
 矢沢米三郎: 信濃博物研究家 (三) Na576, 32~38
 河野齡蔵: 東北諸山の植物採集 Na578, 28~34
 1935 (昭和10) 年
 長谷川吾作, 宮尾邦太郎: 風変りの茸数種
 Na589, 29~34
 矢沢米三郎: 信濃博物研究家 (四) Na589, 24~28
 1936 (昭和11) 年
 中條正勝: 浅間山の植物と其の目録 Na592, 58
 ~86
 上野益三: 日本の湖沼と其生物 Na597, 37~44
 矢沢米三郎: 信濃博物研究家 Na601, 46~49
 1937 (昭和12) 年
 手塚喜一: 姫川及び高瀬川流域に於ける積雪量分
 布に就いて (附) 姫川流域に於ける山椿の分布
 Na611, 49~65
 1938 (昭和13) 年
 前沢政雄: 塩見岳へ Na622, 47~53
 1939 (昭和14) 年
 河野齡蔵先生追悼号 Na635 (全号)
 八木貞助: 長野県自然界と其研究 Na636, 36
 ~49
 1940 (昭和15) 年
 信濃史蹟名勝天然記念物目録 Na640, 146~159
 三沢勝衛・河角広: 彼岸桜の開花期より見たる信
 州の風土 Na647, 7~17
 上野益三: 信濃の陸水とその生物 Na649, 15~
 26
 1942 (昭和17) 年
 五味新平: 戸隠山の羊歯類 Na667, 46~52

 この目録を作成するに当っては、今井建樹・松田
 行雄両氏の御協力を頂きました。厚く御礼申し上げ
 ます。
 (清水建美・木下栄一郎)

〔植物ニュース〕 33. タルホコムギ *Aegilops squarrosa* L.

本種は、長野市箱清水の長野西高等学校西側土手に、1975~78年にかけて毎年発生するのが確認された。その頃信大教育学部学生であった安達永真氏 (現在茅野玉川小教諭) は、長田 (1976) の図鑑から帰化植物のヤギムギ *Aegilops cylindrica* Hostで

はないかと語っていたが、先頃、国立科学博物館の標本と照合した結果、小アジア原産のタルホコムギ *A. squarrosa* L. であることが判明した。本種は一年草で、コムギの起源をめぐる遺伝実験で知られるが、どういう経路をたどってここに生育するようになったかは不明である。御教示を賜った館岡亜緒博士に厚く御礼申し上げる。(高橋秀男・橋渡勝也)